

少量サンプル粘度計

PAC社ケンブリッジビスコシティはラボ型粘度計も扱っています。
下記3種類がラインナップ

- ViscoLab 3000
- ViscoLab 4000
- ViscoLab PVT

詳細は各モデルのカタログを参照下さい。



★低粘性液(水レベル)を高精度測定

測定全領域で高精度ですが、特筆すべきは難しいとされる低粘性液の粘度が高精度に測定できます。これは、落体粘度測定法が持つ大きな特徴です。

日本工業規格 K2283 粘度試験法(ASTM 規格 D445)にトレースし、ASTM 規格 標準粘度計測法として D7483 に登録されています。

★微量サンプルで粘度を測定

機種によりサンプル量 **2mL**、**2mL**、**6mL**の微量で粘度を測定します。

★簡単操作

測定シリンダにサンプルを入れ、ピストン(移動物)を挿入して電源 ON。
この簡単な操作で高精度な粘度測定ができます。

★個体差のない安定した測定

シリンダにピストンが挿入されるだけのシンプル構造なので、機械的な接触部の変異やサンプル液量による測定変動がなく、どなたが扱っても安定した粘度測定ができます。

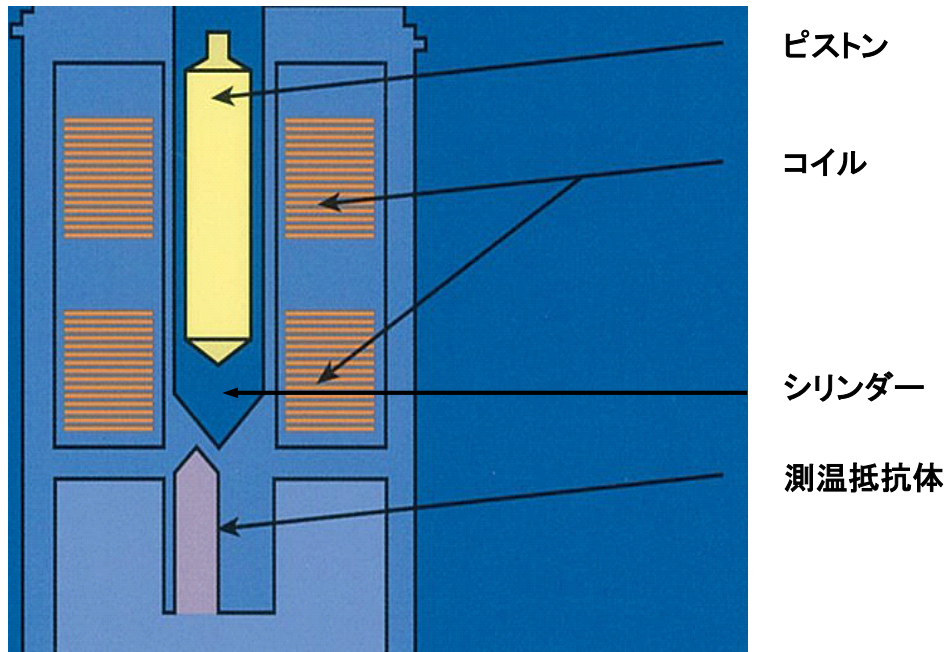
★将来の製造プロセス管理へ

ケンブリッジビスコシティ社はラボ型粘度計と共にプロセス型粘度計(同じ測定手法)をラインナップしており、ラボ型で培った基礎データを製造プロセスの連続監視・管理制御に発展させることができます。

CVI 社粘度計の測定概要

ケンブリッジビスコシティ社(以下 CVI 社)は古くからある落体粘度測定法を基本として、独自の電磁力を用いた測定構造を持つユニークな粘度計です。

《構造と測定手法》



センサーは断面図の通り測定対象液を入れるシリンダ、その周囲に2つのコイルが配置されています。そして、測定液をシリンダに入れピistonと呼ぶ移動物を挿入します。ピistonはコイルの磁力により液体中を移動します。当然、一定距離を移動する時間は液体の粘性抵抗により変化します。この移動時間を測定することで粘度を導いています。さて、移動時間の測定手法は2つのコイルの内、1つがピistonを引っ張るコイル、もう1つのコイルがピistonの移動時間を検出するコイルとして働きます。一方向の測定が終了しますとコイルの動作が反転してピistonを逆方向へ移動させながら同様に粘度を測定します。この測定往復動作は電源をOFFしない限り連続し、粘度測定値も連続して出力されます。

日本総代理店



本社 〒107-0052
東京都港区赤坂1丁目7番19号(キャピタル赤坂ビル7F)
TEL (03)3584-4251(代) FAX (03)3585-9603
E-mail jccsales@jcc.co.jp URL <http://www.jcc.co.jp>

大阪営業所 〒541-0046
大阪市中央区平野町2丁目2番8号(イシトビル)
TEL(06)6231-0054(代) FAX (06)6227-0205
名古屋営業所 〒465-0025
名古屋市中東区上社1丁目1204番地(ロール社東)
TEL (052)778-5300(代) FAX (052)778-5301